

# これがサイエンスアートだ 第2弾

NPO法人 科学芸術学際研究所 ISTA

<http://www.npo-ista.org/>

新たに開発した科学的的手法によるアート、および科学的概念を表現したアートをサイエンスアートと呼んでいます。今回は2箇所の会場で、同好の作者による種々のサイエンスアートを展示します。

2011年11月14日[月]—19日[土]

11:30—19:00 (最終日17:00まで)無休

ASK?®

E-mail: [asku@oak.ocn.ne.jp](mailto:asku@oak.ocn.ne.jp)

<http://www.kb-net.com/ask>

〒104-0031 東京都中央区京橋3-6-5 木邑ビルB1F

TEL 03-5524-0771 FAX 03-5524-0772

東京メトロ銀座線「京橋駅」1番出口より徒歩1分  
都営浅草線「宝町」4番出口より徒歩1分

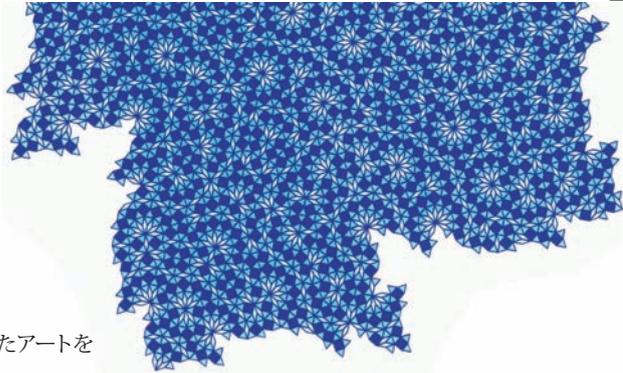


## ISTA とは?

「おや、なんだろう」と赤ちゃんがはじめて出会う外界の出来事を、純真無垢な心で見つめるつぶらな瞳は真剣そのものです。大人になっても好奇心を持ち続けるひとも多いでしょう。この好奇心と理想を追い続ける心が新しい発見や発明、芸術の創造を生み出し、人類に文明をもたらしました。しかし、科学や芸術の発達は、極度な専門化と分業化を招きました。そのために、科学は専門家でないとうまく分りにくく、芸術も専門家が作るものだという固定観念ができました。

私たちはもう一度科学や芸術の原点に戻り、科学の探究や芸術の制作を愉しむような豊かさをもちたいものです。私たちは、そのために、科学と芸術接点を求めるようなボランティアグループとして、NPO法人 ISTA を立ち上げました。平成17年8月27日に埼玉県から認証され、今日に至っております。

ISTA は科学芸術学際研究所の英語名 The Interdisciplinary Institute of Science, Technology and Art の略称です。



2011年11月19日[土]—20日[日]

10:00—17:00

## サイエンスアゴラ 2011 出展

サイエンスアゴラは、サイエンスをとしてみんながつながる「ひろば」です。サイエンスについてのおもしろいこと、気になることやさらにこれからのことを、一緒に楽しみ、語り合い、共有するマルチイベントです。

## 日本科学未来館

3階サイエンスライブラリ Ma-98

<http://www.miraikan.jst.go.jp/>

東京都江東区青海 2-3-6

交通案内

<http://www.miraikan.jst.go.jp/guide/route/>

- 新交通ゆりかもめ (新橋駅～豊洲駅)  
「船の科学館駅」下車、徒歩約5分
- 「テレコムセンター駅」下車、徒歩約4分
- 東京臨海高速鉄道りんかい線 (新木場駅～大崎駅)  
「東京テレポート駅」下車、徒歩約15分

## あなたも ISTA の活動に参加しませんか

私たちは、生まれながらに素晴らしい個性あふれる能力を持っています。既に特技や■をもっているかたには ISTA はその特技を活かす場を提供します。

これから知識や技術を身につけたい方、自分のアイデアを実線してみたい方、科学と芸術の交流に関心のある方は、ISTA にお集まりください。

ISTA は受け身で学ぶ従来のカルチャーセンターを一步進め、異分野、異世代コミュニケーションによって学び合う場です。

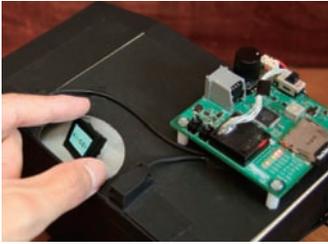
ISTA に関心のあるみなさんの入会を、心からお待ちしています。入会のお申し込みは下記 ISTA の電子メールあてにご連絡ください。

NPO法人 科学芸術学際研究所 ISTA 事務局

〒351-0036 埼玉県朝霞市北原 2-5-28 鈴木第2ビル 211号

Tel&Fax 048-456-7271

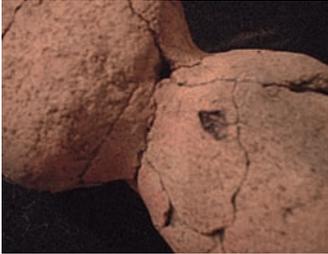
email [ista-desk08@npo-ista.org](mailto:ista-desk08@npo-ista.org)



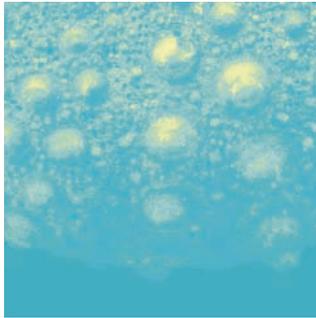
1



6



2



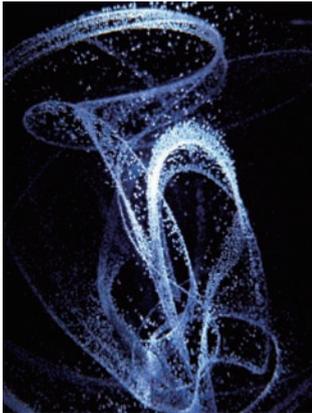
7



3



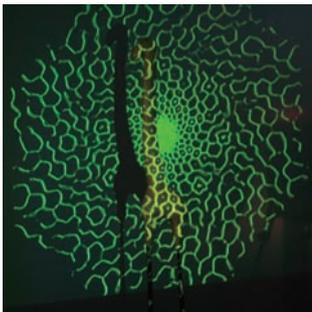
8



4



9



5



10

1. 浮遊表示有機ELディスプレイによる自然からの造形: 浅野千秋(ビデオアーティスト) 内田孝幸(東京工芸大学教授) 櫻井克栄(東京工芸大学院生)(C)

2. 一寸(ちょっと)(数学的概念と現実の関係の表現): 大内公公(造形作家)(B)

3. ポリノミオグラフィ(多項方程式解法の可視化)と書の融合: Bahman Kalantari (USA・ラトガー大学教授) 高木隆司(神戸芸術工科大学教授)(A)

4. アトラクタガラス(カオス現象を表現したガラス作品): 木本圭子(FIRST合原最先端数理モデルプロジェクト技術員) 関川宗久(東京大学生産技術研究所特任研究員) 合原一幸(東京大学生産技術研究所教授、FIRST合原最先端数理モデルプロジェクト中心研究者)(C)

5. キリンパターンの映像(ビデオカメラとプロジェクターの結合): 柴田美千里(造形作家) 山内啓司(映像作家)(B)

6. エロージョンアート(塩酸による白亜の腐食を応用したアート): 高野久仁子(理系造形作家)(A)

7. kokorotomori(コンピューターによるリソグラフィのシミュレーション): 坪谷彩子(女子美術大学芸術学部テクニカルマイスター)(C)

8. ハーモノグラフ(振り子による自動筆記装置): 古川聖(東京芸術大学准教授) 古川研究室(東京芸術大学) 仲野真人(東京芸術大学院生)(B)

9. アラベスク模様の18の多面体: Jay Bonner (USA・ジェイ・ボナーデザイン事務所主宰)(B)

10. 立体エッシャーの紅葉樹林(3次元空間を周期的に充填するパターン制作): 渡辺泰成(産業技術総合研究所客員研究員) 池上祐司(産業技術総合研究所客員研究員) 仲野真人(東京芸術大学院生) 西尾晋作(帝京平成大学学生) 手嶋吉法(産業技術総合研究所研究員)(A,C)

制作の過程をしめす記号: (A)サイエンティストとして研究活動のかたわらアートの制作手法を開発したもの (B)アーティストの活動として制作手法を開発したもの (C)アーティストとサイエンティストが協力して制作手法を開発したもの

これがサイエンスアートだ 第2弾  
NPO法人 科学芸術学際研究所 ISTA